



# さいたま市シニアユニバーシティー岩槻校第9期校友会会報第3号

挨拶

副会長 町田 ○

早くも平成30年度も余すところ約3ヶ月を残すのみとなりました。この間、校友会行事では毎月の全体集会、自主講座(含むボウリング大会)等当初の計画通り行われ、岩槻協議会主催のグラウンド・ゴルフ大会及び文化祭(作品展示の部、演芸の部)には皆さんの大多数が参加され「9期校友会」の健在ぶりを示しました。

一方、史跡巡りクラブ、パソコンクラブ、麻雀同好会も活発な部活動をしています。話は少し変わりますが毎月瀧田会長から頂く「老いを楽しむ言葉」を愛読しています。先人たちの言葉を読んでいると感動するとともに心がけ次第でこんなに楽しい老後を経過することができるんだと勝手に納得しています。

今後も9期校友会の裏方としていつまでも居心地の良い交遊の場を提供出来ればと思っています。しいて言えばこのような役目が自分の生きがいに繋がっているのではと思う次第です。

## GG大会開催

9月20日、恒例のGG大会が10期の全面的協力で開催。今回は各期より腕自慢が87名参加。中にはスティックを初めて手にする会員も。前日より天候が危ぶまれていたが、宮澤会長より「GGを通じて親睦を深めて頂きたい」との挨拶があり、幸いにして無事熱戦がスタートしたが、予報通りの天候で第1ラウンド途中から降雨となり、各期の要望で昨年同様ハーフで打ち切りとなった。我が9期も10名が参加。昨年は中澤さんが見事優勝したが、今年は6位に皆川さんが、7位には澄川○さんが入賞した。初心者の前澤さん、浪江さん、上林山さんも善戦したが残念ながら上位入賞とはならなかった。



9期の精鋭たち(?)



左は6位入賞の皆川さん(左端)



参加者と宮澤会長の挨拶



昨年優勝のベテラン中澤さん



ゴルフ(?)は上手な前澤さん



## 出前講座 埼玉県東部の多彩な祭礼

～人びとの祈り、願い～

講師 板垣 時夫氏

年度当初計画しておりました表記講座が、9月11日に開催されました。板垣先生は日本民俗学会会員で、放送大学学習センターで「埼玉県東部の民俗シリーズ」を5年間担当されておられます。

レジメとパワーポイントにより、祭りと祭礼、構成・形式等、こと細かに説明を受けました。特に、春、夏、秋、冬の祭りに込められた意味とは何か？岩槻区と近隣に関わる祭りについての謂れなど、詳しく説明されるとともに身近に祀られている第六天神社のご神体は漂着神であるとのこと、肯くことも多く楽しい学習となりました。



9月16日実施

国指定 重要無形民俗文化財「岩槻の古式土俵入り」  
(笹久保の古式子供土俵入り)

## 第3回ボウリング大会開催

10月16日（火）第3回ボウリング大会が、春日部ターキーボウルにて開催されました。

昨年比べて参加人員が16名と少なくさびしく感じた。

いざ、競技に入ると熱気を帯び歓声が絶え間なく続き、中にはジャイアンツファンでもないのに、「Gマーク」を付けたりと楽しくプレーをした。男子の優勝は昨年に続き5班の前澤さん、準優勝は澄川さん。女子の優勝はこれまた連覇の澄川さん。準優勝は黒川さん。今年は最下位賞を設けられ長老の牧野さんが輝いた。本大会開催にあたって、準備等支援いただいた2班の岡本さんに感謝いたします。大会終了後には、応援に駆け付けられた方を交えて、中華飯店「酔香園」にて表彰式を兼ねて懇親会が開かれた。来年度については、話題になかったが次年度計画の中に折り込んでほしいと思います。

	男子	女子
優勝	前澤 ○○	澄川 ○○
準優勝	澄川 ○○	黒川 ○○
第3位	関谷 ○	荒井 ○○



ボールを後ろに投球した人がいたり、ダブルの次にゲーターを出す人がいたり・・・年齢のなせる業か・・・？



ボウリングよりも懇親会が盛り上がった・・・！

## 30年度 文化祭 開催

岩槻協議会主催文化祭が11月11日に市民会館いわつきで開催。展示部門は9～10日に城址公民館で、演芸部門は11日に行われた。今年度は特別企画として午前に岩槻出身の落語家三遊亭楽生師匠の「落語を楽しむ」との口演があり、午後から各期の演芸の競演となった。我が9期は三品さんの指導で沖縄民謡「遊庭（あしびな）」と「きよしのズンドコ節」を披露。展示部門には7名の作品が出品された。文化祭終了後、恒例の反省会兼慰労会が東岩槻の庄やで開催。三品さん始め文化祭で多大な尽力を頂いたスタッフの皆に感謝の労をねぎらいつつ、隣の席の4期の方々も交え交流を計りつつ、来年は何を演ずるのか、今から楽しみだ！既に三品さんには構想があり、「今年はとても易しかったので来年はレベルアップするので覚悟してください」との話があった。



「ズンドコ節」を笑顔で輪になって



沖縄民謡「あしびな」を熱演



リーダーの三品さんを中心に



上林山・渡邊・田中さんも楽しく元気に！



踊り終わって皆様にご挨拶



流石、演芸部長の前澤さん・・・？

## 展示部門作品集



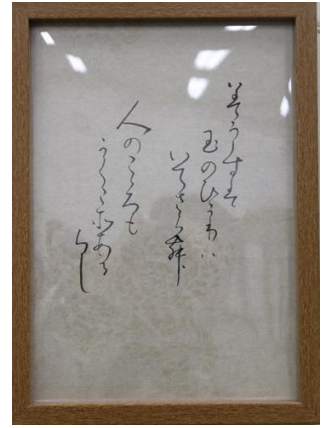
宮崎さん「作衣とバッグ」



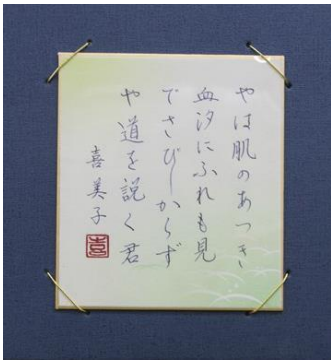
濱野さん「吊るし籠」



石塚さん「貝人形」



黒川さん「行書」



駒宮さん (2点)「硬筆」



樺木さん「日本のチロル」



瀧田さん「瞳」

### 「岩槻の伝説」

### 船越明神社

3班 田村 ○○



関白神社(旧船越神社)

南北朝時代（1330年代頃）の戦乱が続いた時代の事です。

新田氏の武将が全身傷だらけの状態ですら荒川の川辺まで落ち延びてきました。

船頭が船を出そうとするところだったので武将は対岸へ渡してくださいと頼みました。親切で優しい性格の船頭は、直ちに武士を船に乗せ、外から見てもわからないようにむしろをかぶせて対岸へ渡してやりました。

間もなく追っての兵が荒川までやってきて「ここへ落人が来ただろう。落人を渡しただろう」と船頭に問いたしましたが、船頭は、厳しい調べにも決して渡したことを話そうとはしませんでした。その後、船を調べられ落人の血痕を見つけられてしまい、「この血はなんだ。手負いの落人の血だろう。」といい、兵はその場で船頭を切り殺してしまいました。

その後、新田氏が僧となり、この地に寺を開きました。その寺が平林寺であるといわれています。そして、平林寺のそばに社を建てて、船頭の冥福を祈り、「船越明神」と名づけました。船越明神は後に関白神社となりましたが、この事についても伝説があります。

船越明神は船頭を祀った神社なので社格がありませんでした。そこで氏子が社格をもらいに京都へ行ったところ、いたずら好きの貴族が「正一位より偉い関白の位をやろう」といって関白の位をあたえたそうです。ですが、実は関白ではなく閑白だったのです。氏子は村に帰り、神社を閑白神社とよぶようになったそうです。

現在は関白神社とあらためられています。

平林寺は時を経て新座市野火止に移転し、寺の移った後に平林寺の地名がつけられました。